



西区自治協議会 区ビジョンワークショップ報告

2021.12.23 / 黒崎市民会館

1. 開催概要

■日時：2021年12月23日（木）13：00～14：30

■会場：黒崎市民会館 ホール

■自治協議会委員数：36名／当日出席26名

■企画運営：NPO法人まちづくり学校

〈進行〉メインファシリテーター 大滝聡

グループファシリテーター 角野仁美・小見まいこ・木村有希・瀬倉隆博・中村華子

■達成目標：区の目指すすがたを実現するための取り組みに対し、プラスとマイナスの評価を行い、自治協議会としての区の将来像の方向性（今後重点を置いて取り組むこと）をまとめる。

■プログラム：次ページのとおり。

5つの「目指す区のすがた」ごとに事前にグループ分けを行い、意見交換を進めた。

I. 人と人がつながり、安心・安全に暮らせるまち（1班）

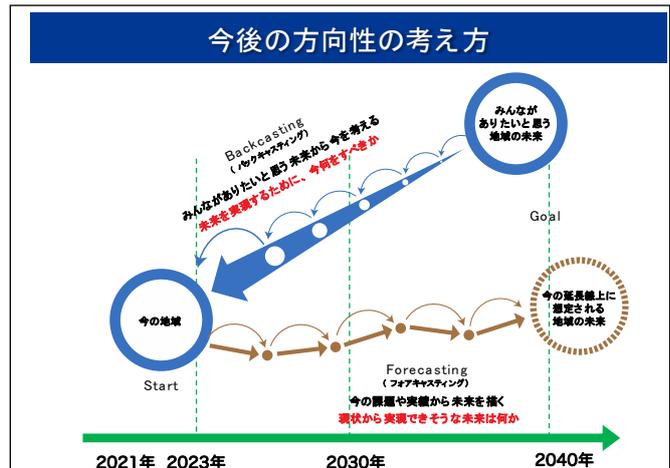
II. 都市と農村が融合するまち（2班）

III. 誰もが学び会える学術と文化のまち（3班）

IV. 豊かな自然と快適な住環境を大切にするまち（4班）

V. 地域と区役所が共に歩むまち

（5班）



意見交換の約束ごと

全員が発言できて、意見が多く出せるように
1人が長く話すぎないようにしましょう。

他の人の発言には耳を傾けましょう
自分とは異なる意見は新たな気づきになるかもしれません。
否定や批判はせず、まずは受け止めましょう。

一人一人が発言するだけでなく、気になることがあったら、
どんどん話し合しましょう

グループメンバー全員で協力し合って、
良い話し合いを創り出しましょう

グループワーク開始前の説明スライド

これまでと
これからを
考える

西区自治協議会 区ビジョンワークショップ

日時：2021年12月23日（木）13：00～14：30

会場：新潟市黒埼市民会館

- 13:00 オープニング
あいさつ・趣旨説明・スタッフ紹介・プログラムの説明
- 13:15 ワークショップ ～西区のこれまでとこれからを考えよう！～
これまでの取り組みに対する各自の評価意見の発表し合い、
意見交換を行って共有します。
- 14:10 グループワークの結果発表
1グループ2分で意見交換の結果を発表していただきます。
- 14:25 クロージング
ふりかえりシートの記入・事務連絡など
- 14:30 終了

Mem o

■ワークショップのようす



2. グループワークのまとめ

■目指す区のすがたに対する今後の方向性（一覧）

I. 人と人がつながり、安心・安全に暮らせるまち

1. 人と人がつながり支え合うまちづくり 2. 安心で安全に暮らせるまちづくり

- みんなが声を上げられる。SOS や「みんなでやろう！」など多用な呼びかけができる。
- 若者、高齢者が豊かに暮らす。
- 今も、ずっと安心。ずっと選ばれるまち。
- 企業も人の気持ちもゆとりをもち（キーワードとして、やさしい）。

II. 都市と農村が融合するまち

1. 農作物のブランド化と商店街の活性化 2. 都市と農村の交流

- 社会の変化や状況に対応しながら、これまでの取り組みをさらに推進し、さらに PR することが必要。
- 区民が地産品を手に入れる仕組みづくりが必要。
- 後継者対策として、農業の自動化や効率化を図る。
- 農業だけでなく、他産業とのバランスや連携を図る。
- 西区にある資源を組み合わせ、都市と自然（農村）の交流を図る。
- 取り組みに対する評価が必要。

III. 誰もが学び会える学術と文化のまち

1. 誰でも学び合える環境づくり 2.文化の継承・創造とスポーツ振興

- 1人ひとりのワクワクを真ん中に、それを支える・認める・実現できる環境づくり！
- 社会の互酬性を高める。

IV. 豊かな自然と快適な住環境を大切にするまち

1. 自然環境の保全と活用 2. 快適な住環境づくり

- 自然環境がよく、住みやすい住環境があるまち。
- 「ここで子育てしたい」と思ってもらえる子育てサービスが充実しているまち。
- 若い人が就職して、暮らしたい、働きたいと思う仕組みが整っているまち。

V. 地域と区役所が共に歩むまち

1. 地域とのさらなる協働の推進 2. はつらつとした風通しのいい区役所づくり

- 隣人を大切にすることで、常に身近で共助が育まれる地域。
- 個人・住民からのボトムアップでアクションを起こしていく地域。
- 後継者を大切に育む地域。

■各グループの意見と集約

1. 人と人がつながり、安心・安全に暮らせるまち【1班】

方向性 まとめ コメントの	みんなが声を上げられる。SOSや「みんなでやろう！」など多様な呼びかけができる。
	若者、高齢者が豊かに暮らす。
	今も、ずっと安心。ずっと選ばれるまち。
	企業も人の気持ちもゆとりをもち(キーワードとして、やさしい)。

これまでの取り組みの評価		評価の集約または今後の方向性	
		個別意見	まとめ
1. 人と人がつながり支え合うまちづくり			
(1) 子供たちの健やかな育み			
プラス	にしっこはぐくみリンクなど子育て世代にとって、アクセスしやすい情報の発信ができた。	住民への事業成果の「見える化」不足。	<p>○今ある資源を活用し、情報のマッチングを行う。</p> <p>○余裕を持つ。 →安心して子どもを産めるように企業の余裕や気持ちの余裕をもつ。</p>
	「にしっこはぐくみLINK」に代表される子育て支援により保護者の孤立化を防ぐ試みが更なる保育の質の工場と子どもたちのセーフティネットの強化に期待する。	年齢による差を考え、情報格差をなくす。	
プレマプレババ教室が子育て支援センター、児童館などで実施されることはとても良いこと(今までは公民館のみなど施設に限られていた)。			
「西っこはぐくみLINK」開設 時世にあった身近な情報ツール。			
子育て支援の情報をLINEで発信できたことは評価。特に第一子の親にとっては不安の解消につながったと思える。			
公民館など子どもの居場所をつくった。			
子どもたちの健やかな育みに向け、低所得世帯を対象とした「子ども勉強会」が自立につながり、進学や就職に成果を残していること。			
マイナス	子どもの居場所が公民館にとどまらず、身近な場所でたくさんできたら、勉強以外にも異年齢交流ができることを望む(現在はふれあいスクールやひまわりが主になっているが、そこに通わない子がいく場所がほしい)。		
	子育てサークル、子どもの居場所の運営者支援が不十分。コロナ対策など情報が得られず、困っている運営者が多かった。		
(2) 健やかに、いきいきとした暮らしづくり			
プラス	健診を促す丁寧な通知から、検診率→発見へ。自己啓発も。		
マイナス	検診の丁寧な通知による促しは、受信者の増加につながっているのか？他の方法はないのか？ 子育て世代の検診は自身のことが後回しになる。特に女性に向けて、何か対策ができたんじゃないか。例えば、子ども検診と一緒に受けられるという仕組みは？		
(3) 高齢者をともに支え合い、助け合う仕組みづくり			
プラス	コロナ禍でも感染対策をしながら、地域の茶の間の間を拡充しているところが多い(今回は60箇所)。		<p>○安心してつながるまちへ。 →近所で支え合ったり、地域に住民から興味をもつ。</p>
マイナス	コロナで閉じこもり介護になる高齢者への対策。 高齢化孤立防止訪問事業をもっと増やしてほしい。		
	孤立し、孤立化対策が不十分。		
	「高齢者孤立防止訪問」や「地域の茶の間」といった福祉サービスが成功しているとは言いがたい。独居や老老介護で孤立する高齢者は多く、医療、福祉の輪にかかっている。現実的に孤立死のような最後を迎えている高齢者は西区でも少なくないと感じる。 「茶の間」固定化 取り残しはないか。 地域の茶の間の開設支援、持続的な活動になっているか？		
(4) 障がいのある人の自立支援			
プラス	障がい者の状態に応じた支援(農作業)、自立した生活を推進、農業への利点(担い手)にもなる。 障がいのある方の自立、生きがいの創出は、「農福連携」へ。		
マイナス			
(5) 地域福祉の推進			
プラス	「いきいきささえあいプラン推進委員会」で第3時計画の策定ができた。 支え合いの仕組みづくりの場として、開眼の場の創出、推進委員の存在、コーディネートの有効性。 住民の意識も地域で支え合う、自ら支えようという意識に変わった。		<p>○どんな人でも社会参加。 →いろんな立場から、高齢や障がいに関係なく、SDGsにも繋がる。</p>
マイナス	若い世代(50-60代)の孤立予防の取り組みが不十分。 引きこもり世帯への支援が不十分。 気軽に参加できる地域活動、ボランティアが少ない。もしくは情報発信が不十分。 自治会長の負担が増加している。仕事しながらできるようにねれば。		

2. 安心して安全に暮らせるまちづくり		
(1) 区民と取り組む災害対策		
プラス マイナス	避難所毎の分散備蓄の実現ができた。住民側の把握から、意識向上へ。防災もちろん いざの際も！	モデル地区などの訓練実施。体制、見学、参加の 機会を作るなど。
	避難所備蓄棚の設置。災害時はもとより住民の意識向上へ。	高齢者を標的にした犯罪の防止。高齢者が関わる 交通事故の対策といった、高齢化社会特有の問題 への対応力を向上させる。
	備蓄の分散配置により、全ての避難所に設置した。	
	防災士の方が各地で活躍している。	
	防災士資格受講の援助。地域防災の一助となる人材へと。	
	「地域の避難マップ」は意識の向上へ、明確化、具体化できている。	
	「地域の避難マップ」は区民にとって有用な情報源である。	
マイナ ス	高齢者、障害者の避難所暮らしが心配。	
	自主防災組織の結成をしているが、どこまで活動できているのか。	
	災害対策の時に子育て中などに乳児、幼児を持つ親に向けた対策や避難知識をもっと 広めることが必要。	
	隠れ要支援者、要配慮者の把握。支援体制の促しや援助が必要。	
	津波、浸水避難対応 民間施設の指定、協力の働きかけは？	
	避難所現地検討会の重要性の広報は十分か？	
	防災士は活用できているか。	
	避難所マップの有効性の検証、根付いているか？	
	(ハードではなく)防災担当職員外の防災意識知識アップ努力されているか？ 住民はもとより。	
	地域の防災のとりくみに悩んでいる自治会が多い。	
「地域の避難所マップ」作成→マップの普及と認知を！		
(2) 地域を守る防犯活動		
プラス	通学路の安全確認の機会を促し、整備できた。	
マイナ ス		
(3) 交通安全の推進		
プラス		
マイナ ス		
(4) 空き家対策の推進		
プラス	空き家の有効活用に地域の茶の間や自治会館として利用したこと。	
マイナ ス	空き家の有効活用できるのは一部。発生させない取り組みの強化が必要。	

○取り残しのない支援。
○さらなる住民の防災意識UP。
○自分のいのちは自分で守る。みんなのいのちはみんなで守る。

II. 都市と農村が融合するまち【2班】

コメントの方向性のまとめ	社会の変化や状況に対応しながら、これまでの取り組みをさらに推進し、さらにPRすることが必要。
	区民が地産品が手に入る仕組みづくりが必要。
	後継者対策として、農業の自動化や効率化を図る。
	農業だけでなく、他産業とのバランスや連携を図る。
	西区にある資源を組み合わせ、都市と自然(農村)の交流を図る。
取り組みに対する評価が必要。	

これまでの取り組みの評価		評価の集約または今後の方向性		
		個別意見	まとめ	
1.農作物のブランド化と商店街の活性化				
(1)地場産農産物の消費拡大とブランド化				
ブラ	すいこまつりは売上に貢献している。 感染症拡大を踏まえて、PR方法を切り替えた柔軟性はGood。 イベントなどコロナ禍で少しでもPRできたのでは。他地区農園との連携PR、沼垂商店街でPR(ミトマ、内野小特別支援)など。 情報サイトや公式SNS開設など購買につながる仕組みを構築した。 集客型のイベントが出来ない状況だったときに、分析調査など次に繋がることをされたのは良い。 いもジェンヌ商品開発について、干し芋バック商品は売り場で見かけ効果があったと思う。 農産物のブランド化出来ている。GI登録もできた。 「新潟スイカ」「やわ肌ネギ」を首都圏でPRして知名度が拡大した。 茶豆の単価アップ、いもジェンヌの作付面積が広がったのは取り組みの効果が現れた。 いもジェンヌの栽培面積が増加した。	<ul style="list-style-type: none"> ・茶豆まつりやすいこまつりなど、ブランド周知のためにこれからも取り組んでほしい。 ・大根の大量破棄が問題になったが、捨てるほどあるということ。B級品(規格外)も流通できる仕組みを作れない? ・SDGs、環境(豊かさ)の視点があると良い。 ・「くろさき茶豆」のブランド名を、集落を超えて流通させるのも一つの手では。 ・いもジェンヌの絵本が販売されていないのでまだ読んでいない。書店、観光施設にもおいてみては。 ・これまでに開発・支援してことを繰り返し実施していく。 ・いもジェンヌは生産地の活性化・栽培面積稼働付加価値の高い農業のPRになるのでは。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会の変化や状況に対応しながら、これまでの取り組みをさらに推進し、さらにPRすることが必要。 ・区民が地産品が手に入る仕組みづくりが必要。 ・後継者対策として、農業の自動化を図る。 	
マイ	な	<ul style="list-style-type: none"> ・くろさき茶豆は人気があるけど、買いに行く売り切れが早い。 ・季節商品として、ル・レクチェのように販売開始時期やパッケージ、袋売の統一されない売り場もあった。 ・「くろさき茶豆夏の陣」「茶豆サミット」「茶豆まつり」色々似ている名称がよくわからない。 ・作付面積増やしたいけど、農家(引き受けて)が不足している? ・さつまいもは容易に焼酎に加工できると思うが、現物を見たことがない。 ・耕作放棄地が増えている。放棄地を増やさない対策を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・農家は人手不足、高齢化問題重大であると考えられるためより農家を支援する取り組みが必要。 ・農業の自動化やITを活用すべき。 ・専用サイトのアクセス数や購買実績はどのくらいあるのか。 ・スイカまつり来場者数売上は単年度のデータのみではわからない。複数年のデータでの分析が必要では。 ・ブランド認知度まだ低い。 ・いもジェンヌ以外の商品を聞いたことがない。 ・農産物をキャンプ場や海など屋外で提供できればより効果が高いと思う。(同じものでも一人より複数人、家の中より外で食べたほうがおいしく感じる) 	
(2)農工商連携の推進と商店街の活性化				
ブラ	<ul style="list-style-type: none"> ・農業だけでなく、他産業とのバランスや連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いしがた観光ナビの更新が必要。 ・区の概要に「産業」と書いてあるが、「目指す区のすがた」には「農産品+農工商連携(あくまで農業が主役)・商店街しか書かれていない。西区全体で海を活かした新たなレジャー産業もいいのではないかな。 ・西区の全産業のうちこの分野の産業規模は?他の産業に關しての計画?目標が全く書かれていない。 ・良い産業(職場)があつての住みやすい地域ではないかな。 ・農も学も自然も産業にできるが、区ビジョンに「産業の活性化」が含まれていない。 ・これまでにとらわれず、人口減少や超高齢化に対応した新たな商店街のあり方を検討していくことが急務では? 	<ul style="list-style-type: none"> ・農業だけでなく、他産業とのバランスや連携を図る。 	
マイ	な	<ul style="list-style-type: none"> ・目玉になる商品はあつて提供される店舗などの周知については?西区内に一般区民に伝わってない。 		
2. 都市と農村の交流				
(1)生産者と消費者の交流				
ブラ	<ul style="list-style-type: none"> ・農作業の実態を知る「親子農業体験教室」を開催した。 ・栄養教諭との連絡会議は食育推進に役立つ。 ・身近に生産者がいて短時間で食べられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・みずべり(やすらぎ堤)の活性化成功の事例を西区の海でも実現できるのは。 ・農村だけでなく、日本一の砂丘、日本一の便利な海も活用(融合)して欲しい。 ・農作を始める人に向けて農地付き住宅を提供するのはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組みにおいて、西区にある資源を組み合わせる。 	
ナ	ス	<ul style="list-style-type: none"> ・都市と農村が融合の交流が実現するとうなるか、目的が市民に伝わっていない。どんな住みやすさ?環境としてもいい? 		

(2)「農」を通じた食育の推進		
<p>ブ ラ ス</p>	<p>小学生の農業体験について。過去の取り組みの写真を見ると大根の収穫を行っているようだった。新潟＝お米→田植えとなりがちだが、その区の魅力を知ることができること(特産品の収穫など)を行うことで若い世代に魅力を伝えることができると思います。</p> <p>.....</p> <p>収穫体験など子供も楽しんでいる様子。売る体験もできれば。</p> <p>.....</p> <p>小学校の体験学習は良い。</p>	<p>田園や海・川・潟など、都市と自然が隣接している良さをPRすべき。</p>
<p>マ イ ナ ス</p>	<p>「農」を通じた食育の推進について、例年10組というのは人口15万人対して、少なすぎ(費用対効果が少なすぎる)。</p> <p>.....</p> <p>取り組みの実績はわかったけど、成果がどのくらいか見えない。</p> <p>.....</p> <p>農業体験教室の参加希望者が減っているのは魅力がないから？PRの問題？旅行会社と連携は？</p> <p>.....</p> <p>食料自給率の現状を教える場が必要。</p> <p>.....</p> <p>収穫体験でなく、作付け(定植)体験も必要。</p>	<p>・担い手として、職業を意識する中高生への体験学習。農福連携の可能性を探る必要あり。</p> <p>・農業従事者育成に役立っている？(データ)アンケートにより事業効果の検証や改善が必要では。</p> <p>・地産地消推進効果はあるのか。データ(アンケート)検証できているのか。</p>

・連携して農業体験ツアーを実施し、農業の担い手育成へとつなげてほしい。

・取り組みに対する評価が必要。

Ⅲ. 誰もが学び会える学術と文化のまち【3班】

コ メ ン ト の 性 の 向 き	目指す姿・・・1人ひとりのワクワクを真ん中に、それを支える・認める・実現できる環境づくり！ 社会の互酬性を高める
---	---

これまでの取り組みの評価		評価の集約または今後の方向性	
		個別意見	まとめ
1. 誰でも学び合える環境づくり			
(1) 多様な学びの場づくり			
ブ ラ ス	大学との連携、多様な学びの一助となる。 (大学連携) 大学等が地域資源となって区民との交流が継続的に実施されている(アート、健康まつり、農産物)。 (多様な学びの場づくり) 多様なステークホルダーの関与の場を作り、地域課題の解決に向けてより多様な地域人材やノウハウ活かした手法(スキルミックス)で取り組めることは市民地域社会への信頼度や互酬性を高めることにつながっている。 ブックスタート事業、落ち着いた心が育まれる。絵本の良さ。	大学生の参加は活気づきます！ 継続していることが素晴らしい。	
マ イ ナ ス	(大学連携) 大学連携事業の評価として、件数だけではなく質的な評価や実施の成果を別の事業に還元することは出来ないか？(例: 取組内容を学校に講演するなど) 大学や地域住民との「連携協働」のあり方についてさらに深化・検討することが課題。→「連携能力」の向上 学びの共有とは？学ぶ機会があると良い。大人の学びたい欲求、あります！ 新型コロナの影響で、交流機会の場・機会が減少。 ブックスタート、レファレンスサービスなど、資料の借り受けについて、市民のニーズと一致するか。スムーズな借り受けのシステム構築が必要。	大学との連携が見えづらい どこが窓口？(繋がりが分かりづらい、見えづらい→体系化されていない) 大学や行政からのアインプリングがなくなりつつある。 (これからの取り組むべきこと) アフターコロナ(ウィズコロナ)時代でも多様な学びの場作りとして、対面と非対面(デジタル)の両方を活用できる環境づくりが必要では？	やりたいことをワクワクみんなでやれる。 →それを支える、認める環境づくり
(2) 地域と学校の連携			
ブ ラ ス	15年間のパートナーシップ事業の充実、新潟市の強み。どう発展させていくか？学校と地域の信頼関係が必要。 ふれあいスクール事業を通じて参加ボランティア人数が増加したこと。(シルバー世代の活躍＝健康にもつながる)。 地域と学校の連携「子供ふれあいスクール」安心・安全に遊び場で異年齢交流の仕組み(メンター制)形成されることは持続的な地域での教育力として期待される。	パートナーシップ事業をきっかけにして子供に関わる大人が増える→コミュニケーション・安全・多様な思考に触れられる。	子どもたちのやりたい学びを地域で支える体制・システムづくり。 →人材育成に力を入れる →まずはキーマンを発掘する
マ イ ナ ス	パートナーシップ事業を活用した学社民の融合の教育は新潟市の特徴(強み)であるため、継続発展させるための仕組みが必要。 通学路: 学校や地域が要望してもなかなか改善されない。子供命がかかっているのに点検だけではなく、早急に改善に結びつけて欲しい。 通学路の安全確保。対応はどこがしている？個々で問題提起→一本化して欲しい。(地域で？学校で？)	問題を改善していくための、体系化が必要。	1人ひとりのやりたいことを後押しできる雰囲気づくり、つながりづくり。 →ソーシャル・キャピタルの価値を見つけていく
2. 文化の継承・創造とスポーツ振興			
(1) 文化の継承と創造			
ブ ラ ス	様々な機関や団体が協力して、文化発信・共有する機会は貴重。 文化継承と創造 質・専門性の高い文化・芸術の実際に市民が気軽に触れる貴重な機会を提供→子供たちや一般市民の文化教育としての意義は大きいと考えられる。 ゴミの減量とリサイクルをしっかりと取り組んでいる。	新大と地域のアートイベント、音楽イベント等。	関係性の在り方を変えていく。 →連携ではなく協働 →互酬性を高めていく
マ イ ナ ス	人材育成に取り組む必要性。 環境教育はどれくらい取り組まれているか？ イベント、発信以外に文化の「継承・創造」のための取組(文化の担い手育成等)の具体的方策はあるか？ 地域文化: 歴史のある地域に特化している。新しい住宅地にも光を当てて欲しい。 今後の方向性・課題: 効果評価の実施、各項目における具体的な数値目標の設定、各事業の健康増進効果を検証できる評価手法の開発→評価の仕組みを事業内に組み込む。		心が豊かになる文化・芸術を大切に する。 本物にふれる機会をつくる。

(2)スポーツの振興			
ブ ラ ス	スポーツの推進と健康寿命な延伸に取り組んでいる。	オレンジロード、西川ふれあいロードなど。	指導者同士の学びのネットワークをつくる。 →様々なニーズに対応できるように、アップデートを重ねる 地域主体の複合的・総合的な組織が、学びづくりに向けて動いていく！ →それを公・学が支援していく＋民も混ぜていく(SDGsの視点で一緒につくっていく)
	スポーツ振興「特色ある区づくり事業」：多世代・多岐にわたった運動教室において様々な対象の多くの市民がスポーツをするきっかけを作った→行政が主導することで、信頼度も高く、運動初心者が気軽に参加しやすい雰囲気作りを行った。		
	スポーツ推進委員と連携事業において、実施内容も年々、向上・充実し、より安全で発展した運営が実現していた。またイベントを通じて、各自主グループ同士の情報交換・交流も深まっている雰囲気があった。		
	コロナ禍での健康維持は全世代にとっての課題であるが、「〇〇教室」でのきっかけづくり、継続的な運動促進の取組は重要。	イベントでもよいのですが、一人でもできる・日常生活でもできる→この考え方は大切だと思います。	
マ イ ナ ス	スポーツの振興「特色ある区づくり事業」：これまでは区民一般に広く参加者を募集する。「イベント型」が主。→継続のためには今後「アウトリーチ型」アプローチや、地域住民が主体的に運営する組織やクラブの育成とバックアップ(支援)という視点が必要か(←小規模な対応)		
	総合型地域スポーツクラブ、地域住民主体の組織クラブの育成が必要。		
	今後の方向性として：変化し続けるスポーツ環境においてより安全で効果的なプログラムを提供できる指導者やコーディネーターの育成・資質向上(「支える」別の育成)の機会(ネットワークの形成)がスポーツ振興において重要。		

Ⅳ. 豊かな自然と快適な住環境を大切にすまち【4班】

方向性のまとめ	自然環境がよく、住みやすい住環境があるまち
	「ここで子育てしたい」と思ってもらえる子育てサービスが充実しているまち
	若い人が就職して、暮らしたい、働きたいと思う仕組みが整っているまち

これまでの取り組みの評価		評価の集約または今後の方向性	
		個別意見	まとめ
1. 自然環境の保全と活用			
(1) 河川の美化と環境づくり			
プラス	西区一斉グリーンデーで参加者は増えている。 西区一斉グリーンデーは維持事業として取り組み事業主旨と啓発努力されたい。 西区では活発なボランティア清掃があり、件数も多い。 ボランティアパワー 継続してほしい。 西区一斉グリーンデー事業が定着してきた。 ボランティア清掃の団体数および参加人数が新潟8区の中で突出しています。プラス評価する側面もあります。		環境と住民の調和のとれたまち →お互いを支え合うソフトとインフラなどハードの整備で、区全体を底上げする
	マイナス	西区一斉グリーンデーのマンネリ化。 西区一斉グリーンデーは有益な取り組みと思われませんが、ポイ捨て防止に対する抑止力とまでいっていない。啓発活動を活発に展開すべきではないか。 ゴミ問題から脱却できていないマイナス評価もあります。 西川の美化については上流部の西蒲区とのさらなる連携を。 一部ボランティアを除いては、動力不足が見られる(周辺自治体と行政頼み)。 ポイ捨ては県市道や農道に無数に存在しています。河川の美化も大切ですが広域的に取り組み時期に来ていると思います。 新川河口付近の小型ボートの不法係留。	
(2) 日本海夕日ラインの魅力アップ			
プラス	青山海岸や内野浜での海水浴場で内外から多くの利用がある。 小針から松海が丘まで路肩が整備され、訪れる人も増えている。 電鉄跡地オレンジロードとして西川ふれあいロードが完成し、健康づくりや移動の手段として利用されている。 長い海岸線を有する西区の特徴として海水浴場(四ツ郷屋・内野浜・青山海岸)の開設は交流人口の拡大に有益です。 ようやく内野浜、四ツ郷野浜の離岸堤工事が始まった。		夕日ラインなど自然の豊かなイメージがさらに認知されるまち
	マイナス	日本海夕日ライン 清掃事業は引き続き関係機関に要望されたい。 日本海夕日ラインの西区における絶景地があるのかないのか不詳でわからない。単なる通過地であるとすれば魅力アップは難しいのではないか。 国道402号線、自転車、歩行者の一方通行空間整備がPR不足で周知されていない(地域住民以外に)。 海洋スポーツ(サーフィン、ウィンドサーフィン、釣り、水上モーターボート)などの利用団体の育成と連携を~開かれた海へ~。 新川~四ツ郷野~西蒲区越前浜までの国道402号沿いの自転車専用道路が整備されていない。	
(3) 保安林の保全とボランティア育成			
プラス	松食い虫防除により被害木が激減したことの意義は大きいと思います。 松食い虫被害が減少している。		
	マイナス	海岸侵食対策事業は自然環境を維持する上で欠かせない。整備推進を切望します。 松食い虫対策事業は引き続き維持を切望する。 保護林保全とボランティア活動は区民共通の問題である。さらなる啓発を行い周知願いたい。 パワー不足。 保安林内の遊歩道(青山~西蒲区角田)の整備はできないか。国県への働きかけの強化~	
(4) 佐潟の保全と活用			
プラス	佐潟の保全~湿地保全の普及活動は引き続き発信願いたい。 ラムサール条約の登録湿地"佐潟"の魅力発信に取り組んでいることに敬意を表します。引き続き発信を続けてほしいと思います。 佐潟公園の整備が進み、景観がよくなった。		
	マイナス	ハスの復活の推進。上佐潟、御足洗潟を含めた一周遊歩道の整備を。	

(5)環境教育の推進			
ブラス	<p>未来を担う子どもたちへの環境教育の取り組みは引き続き推進していただきたい。</p> <p>小中高生対象の河川環境整備啓発事業は効果があるので、維持事業として再度検討されたい。</p> <p>出張授業としてエコ教室の開催を推進したら。</p> <p>各学校区ごとに海岸、保安林、河川、農地など実地見聞学習を進めたら。</p>		
マイナ	イベントを利用して環境に対する意識を向上させる。		
(6)自然を活かした交流人口の拡大			
ブラス	<p>まち歩き参加者は倍率も満足度も高く今後も継続が望まれる。</p> <p>地域資源を活かしたまち歩きは観光資源に乏しい西区にとって貴重です。観光としての可能性がある。</p>		農地が住宅地になることで、人口流入するまち →耕作放棄地を減らす。農地を住宅地へ
マイナ	<p>黒埼地域の類型はまち歩きの形態が異なるため「大野町」と「黒埼南部地域」に、明確に区分いただくことを望みます。</p> <p>御手洗場、ドンテ池、金巻の池/水戸際池も組上に上げていただければありがたい。他の湧も！</p> <p>黒埼南部地域のまち歩きは、広域にまたがるためバスツアーにならざるを得ない。コロナ禍の影響で2～3年の2年間は中断しています。</p> <p>海水浴場の保全管理は人力が要求されるので、一步一步の普通の努力を要望する。</p> <p>赤塚、黒埼地域住民は、地元の観光資源価値が解らない。住民の意識改革が必要であるので観光資源価値を用意したら！！</p>		雇用の機会が豊富にあり、選ばれるまち →工場やサービス業など働く場所の確保により、新大生が残って働きたいと思える。就職先が豊富にある地域に。 →空き家を流通化される制度が必要ではないか。(売買できるような検索システムや安くイノベーションできる補助金の整備)
2. 快適な住環境づくり			
(1)緑化の推進			
ブラス	<p>キララ西公園が開設され、団体、家族での利用が増えている。</p> <p>緑地の推進 きらら西公園の面積拡大と公園愛護により高齢者活用強化(健康寿命延伸)。</p> <p>地域の協力を得ながら除草や清掃などの公園愛護活動ができています。</p> <p>公園の量的整備は概ね完了していると思います。</p> <p>公園愛護団体の拡充は評価します。</p> <p>きらら公園整備は約5%整備されたが、市道農道などの住居看板等を増設してほしい。今後も規模拡大に伴い、遊具、植栽、整備を要求する。</p>		
マイナ	<p>キララ西公園へのアクセス道路の整備が必要。</p> <p>公園内に幼児遊べる水場があると良い。</p> <p>立体的な緑の捉え方である緑視率に見劣りを感じます。新設の公園は勿論のこと街路樹を含めた効率的な緑化を考える必要があります。</p> <p>緑視率の視点からは学校グラウンドの芝生化が望まれます。</p>		
(2)ごみの減量とリサイクル			
ブラス	<p>現行の取り組みがベターである。</p>		
マイナ	<p>ごみ減量に資する家庭用生ゴミ処理容器などの購入補助制度がありながら積極的なPRが見られません。</p> <p>”暮らしやすい”は年々多様化している。西区には利便性の高さが特徴であるが、その他にもアウトドア・農・漁業的住環境もあるのでは。</p>		
(3)連携による飛砂対策の推進			
ブラス	<p>砂丘地では飛砂は避けられない。今後とも重点地域・箇所に継続的な対策を進めていく。</p> <p>人工砂丘の延伸とハマスコログ等の植栽事業を関係機関とさらなる推進に向け取り組みを希望。</p> <p>飛砂防止柵の推進が進み、効果を発揮しているとは高く評いたします。</p> <p>実態に合った関係部門との連携強化されている。大学連携進んだ。</p> <p>飛砂対策が進み除砂回数が減少する。</p> <p>緑肥種苗や防砂ネットの支援方策で赤塚地域の飛砂問題に行っている効果が生じていることは歓迎いたします。</p>		
マイナ	<p>赤塚地域の飛砂防止柵植栽マサキ苗の予算と一農家あたり補助金が少ない。抜本的対策はJA、県、西蒲とも効果ある予防策を導入してほしい。</p>		

(4)暮らしやすいまちのかたち			
ブ ラ ス	暮らしやすい中央環状道路の整備により、道路交通の円滑化が進んだ。		
	除雪路線の延伸と私路除雪の支援は引き続き、継続されたい。		
	大雪時には、夜中から除雪車が出動し対応している。		
	防雪力向上に対する除雪車運行管理システムの導入を評価します。また、大雪は災害であると啓発と自助・共助・公助で災害を乗り越えることのより一層の周知を期待します。		
	新潟中央環状線の開通に向け地域住民、県、関係団体と国交省に繰り返し整備促進を努めること。「オレンジ道路」「ふれあいロード」とも散歩、サイクリングコースに向け希望が持てる。		
	オレンジロード、西川ふれあいロードは時宜に合った取り組みでした。		
	国道8号から中之口川大橋西詰の開通は黒埼南部地域にとってすこぶる寄与するところが大きいです。引き続き、道路ネットワークの拡充を期待します。		
	住民バスの運行は公共交通確保から必要である。残念なことに利用者が少ない。住民も要求するが利用者の協力度が薄い。利用地域全員の利用データーを示し、利用促進を要望する。 ゴミ分別の看板によってゴミステーションのマナーは良くなってきています。		
マ イ ナ ス	一部に不法投棄などの問題があり、アプリなどを活用して啓発に努めなければならない。		
	大雪時における・通学路の除雪対策と休校について対応を考える。各学校に委ねられた。子供の安全との兼ね合いがある。		
	”暮らしやすい”は年々多様化している。西区には利便性の高さが特徴であるが、その他にもアウトドア派・農・漁業的住環境もあるのでは。		
	現在の「新潟交通」に頼ったバス輸送は限界である。もっと地域に密着した小回り効く体制を。 公共交通機関空白地域の解消は実態として無理と判断しています。当該地域にはタクシー業者と連携し高齢困窮者対象の利用補助制度の創設が急務と思われます。 交通弱者に対する啓発活動と安定した利用者数の確保は難しい面がある。区バス、		

V. 地域と区役所が共に歩むまち【5班】

方向性のまとめ	隣人を大切にすることで、常に身近で共助が育まれる地域。
	個人・住民からのボトムアップでアクションを起こしていく地域。
	後継者を大切に育む地域。

これまでの取り組みの評価		評価の集約または今後の方向性	
		個別意見	まとめ
1. 地域とのさらなる協働の推進			
(1) 区自治協議会との協働			
プラス	リモートで参加できる環境が整った。	<ul style="list-style-type: none"> ・リモート会議への参加の仕方や機材の操作方法の研修が必要。 ・各取り組みに対して共通の検証シート主催者全員に提出してもらい、第三者が評価する仕組みをつくるのはどうか。 ・コロナ禍でのコミ協と関係自治会との連携活動のあり方を探る。 ・西区15コミ協のうち、互いに近隣コミ協だけでの交流があると良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○黙っていても共助が育まれる地域。 ○隣人から大切にされる地域。
マイナス	<ul style="list-style-type: none"> ・リモート会議に対するハード面の整備。 ・15コミ協会長会議がコロナ感染対策のため定期的な開催とならなかった。 ・課題抽出をもっと議論し、数年かけてもよいような地域横断的なものにも取り組むべき。 ・企画内容の整合性を市と自治協ではかる必要がある。 ・課題が大きすぎるものは自治協の手にあまるものがある。 ・住民への周知に関して、平事と急事(防災など)の対応を決めておく。 ・やるのが目的になっている企画内容が多い。 		<ul style="list-style-type: none"> ○いじめや貧困を未然に防ぐことのできる地域づくり。
(2) 地域コミュニティとの協働			
プラス	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍でも補助金の交付を継続している。 ・協議会運営活動・地域活動に対する補助金の交付。 ・協議会拠点の整備。 	コミ協内の意識醸成の支援をする必要性。	
マイナス	<ul style="list-style-type: none"> ・コミ協の拠点整備で4つのコミ協が未解決のところ。 ・コミ協ごとの組織力に差がある。 ・コミ協の役員レベルまでは理念や活動内容の理解が進んでいるが住民レベルまでは理解が進んでいない。 		
(3) コミュニティ活動に参画する人材の育成			
プラス	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生を巻き込んだ活動ができた。 ・中学生からの意識づけができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・若い世代に任せることで若い人材を育てていく。 ・単発イベントに継続的に参画してもらうことで自治会やコミ協に入れる仕組みをつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○町に常に入り込んでくれる人がいる状態。
マイナス	<ul style="list-style-type: none"> ・人材を育成した後のその人たちの活用方法が不明瞭。 ・人材育成をするがそれを起用しきれていない。 ・コミ協に若いプレイヤーが参加しない。 ・自治会長研修をもっと増やす。 		<ul style="list-style-type: none"> ○町に入り込む後継者が育まれる地域づくり。
(4) みんなをつなぐ広報・広聴の充実			
プラス	広報誌の内容・記事、読みやすい紙面づくり		
2. はたらつとした風通しのいい区役所づくり			
(1) はたらつとした風通しのいい区役所づくり			
プラス	<ul style="list-style-type: none"> ・区民生活課と健康福祉課が合同で窓口改善チームを立ち上げ取り組んでいるところ。 ・職員の窓口対応が良い。 ・ワンストップ窓口が徹底され迷うことなく必要なサービスが受けられている。 	待合スペースに優先席などを設けるのはどうか。	
マイナス	<ul style="list-style-type: none"> ・来庁者が多い時は待合の椅子が不足することがある。 ・要望への対応に時間がかかることがある。 ・要望への回答に対して、できないをはっきりと伝えてほしい。 ・窓口アンケートの評価がわからない。 ・要望に対しての改善内容がわからない。 		
(2) 親しみある区役所づくり			
プラス	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な地域住民・子どもたちとの活動があること。 ・SNS発信をしている。 ・職員の地域への参加。 		

■各グループの意見交換の記録（ワークシート）

2021.12.23/西区
区ビジョンまちづくり計画ワークショップ

I. 人と人がつながり、安心・安全に暮らせるまち【1班】

これまでの取り組み	取り組みの評価	今後の方向性	方向性のまとめ
<p>1. 人と人がつながり交わらざるまちづくり</p> <p>(1) 子供たちの健やかな育み プラスの評価</p> <p>(2) 健やか、いきいきとした暮らしづくり プラスの評価</p> <p>(3) 高齢者とともに交わらざるまちづくり プラスの評価</p> <p>(4) 障がいのある人の自立支援 マイナスの評価</p> <p>(5) 地域福祉の推進 プラスの評価</p>	<p>2. 安心に暮らせるまちづくり</p> <p>(1) 区民と取り組む災害対策 プラスの評価</p> <p>(2) 地域を守る防犯活動 プラスの評価</p> <p>(3) 交通安全の推進 プラスの評価</p> <p>(4) 空き家対策の推進 マイナスの評価</p>	<p>1. 人と人がつながり... 交わらざるまちづくり SDGs 今後は資源と活用 情報とやり 安心に暮らせるまちづくり 障がいのある人の自立支援 余裕 全、安全</p> <p>2. 安心に暮らせる... 安心に暮らせるまちづくり 防犯活動 交通安全UP 空き家の活用 空き家の活用</p>	<p>人と人がつながり、安心・安全に暮らせるまち</p> <p>● みんなが声をあげたら どんな人でも社会参加</p> <p>● 安心とゆとり 今も、ずっと元々は木子西 若者・高齢者が豊かに暮らす</p> <p>企業 余裕 安心 ゆとり</p>

1班

2021.12.23/西区
区ビジョンまちづくり計画ワークショップ

II. 都市と農村が融合するまち【2班】

これまでの取り組み	取り組みの評価	今後の方向性	方向性のまとめ
<p>1. 農作物のブランド化と商店街の活性化</p> <p>農産物ブランド化 プラスの評価</p> <p>商店街の活性化 プラスの評価</p> <p>2. 都市と農村の交流</p> <p>(1) 生産者と消費者の交流 プラスの評価</p> <p>(2) 「食」を通じた教育の推進 マイナスの評価</p>	<p>農産物ブランド化 商店街の活性化 都市と農村の交流 生産者と消費者の交流 食を通じた教育の推進</p>	<p>農産物ブランド化 商店街の活性化 都市と農村の交流 生産者と消費者の交流 食を通じた教育の推進</p>	<p>農産物ブランド化 商店街の活性化 都市と農村の交流 生産者と消費者の交流 食を通じた教育の推進</p>

2班

2021.12.23/西区
区ビジョンまちづくり計画ワークショップ

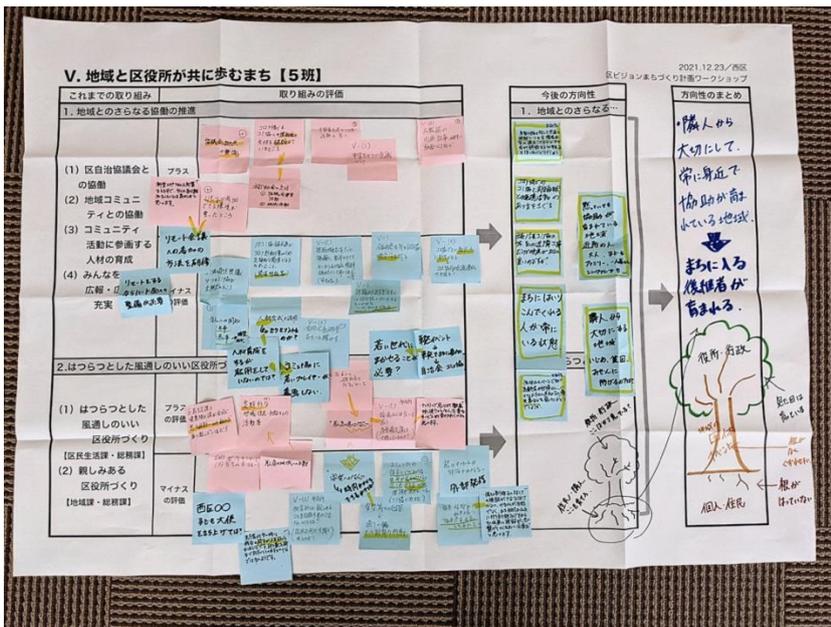
III. 誰もが学び会える学術と文化のまち【3班】

これまでの取り組み	取り組みの評価	今後の方向性	方向性のまとめ
<p>1. 誰でも学び会える環境づくり</p> <p>(1) 多様な学びの場づくり プラスの評価</p> <p>(2) 地域と学校の連携 マイナスの評価</p> <p>2. 文化の継承・創造とスポーツ振興</p> <p>(1) 文化の継承と創造 プラスの評価</p> <p>(2) スポーツの振興 プラスの評価</p>	<p>誰でも学び会える環境づくり 多様な学びの場づくり 地域と学校の連携 文化の継承と創造 スポーツの振興</p>	<p>誰でも学び会える... 多様な学びの場づくり 地域と学校の連携 文化の継承と創造 スポーツの振興</p>	<p>誰でも学び会える... 多様な学びの場づくり 地域と学校の連携 文化の継承と創造 スポーツの振興</p>

3班



4 班



5 班

3. 参加者のふりかえり

シート回収数 26 枚

〈Q1〉全体の満足度

平均値 4.58

(とても満足した：5 満足した：4 普通：3 不満だった：2 とても不満だった：1として算出)

〈Q2〉Q1でそう思った理由は？

■とても満足した（15名）

- ・皆さん熱を込めて語り合うことが出来ました。共通の思いが確かめ、また新たな気づきがあり有意義でした。
- ・議論の中身が充実していた。
- ・様々な立場の方々の深い意見や現状の課題を伺いながら、2030年の将来の姿を一緒に議論できたため。
- ・方向性、方針の確認、共有ができた。皆さん活発な意見・対話の中で考えていることの「見える化」ができた。
- ・専門分野のメンバーで話し合い、方向性のまとめがいい要、目指す姿として出てきた。
- ・自分の意見が他の方と繋がり、考えを深めることが出来ました。
- ・多様な方々から多様な意見を聞いた。
- ・意見が貴重。大変素晴らしいと思った。
- ・自分の頭の中で考えていたことを実際口にすることで、確認と納得することが出来ました。
- ・たくさんの気づきと発見があったこと。改めて未来の西区を創造するのは楽しかった。

- ・全員が自分の考えを述べる事が出来た。
- ・全員が自分の意見を発表できた。
- ・西区の思いを感じた。
- ・周りに気を配って運営していただきました。
- ・進行がスムーズ。

■満足した（8名）

- ・地域の良い点や課題を共有でき、今後に向けていい話し合いができた。
- ・見逃していた問題点を再確認、再認識できた。
- ・多様な意見が発言され、将来に向けた区の方角性が構築された。
- ・分野別に多くの委員の考えが聞けたこと。
- ・各人の意見を聞くことが出来た。
- ・皆さんの意見が多く出、私も感じるが多かった。
- ・色々な面で勉強になった。
- ・もう少し時間が欲しかったので。

■普通（1名）

- ・時間が少なかった。

■未記入（2名）

- ・日頃悩んでいることは自分だけではないんだなあーと実感しました。

- ・防災への取り組み、障害者支援、子育て支援など様々な活動分野の視点での意見を聞いて学ぶことが出来た。

〈Q3〉WSでの気づき

- ・みんな温かい、安心安全な豊かな思いやり支え合いの力のある郷土づくり地域づくりを望み目指している。力を尽くす機を惜しまないと思っている。これを実現していくように努力したいと思います。熱量が感じられて嬉しく思った。
- ・自分の知らない地域の課題を発見するとともに、それに向けて改善しよう意識して活動している方々が沢山いらっしゃることを知れたこと。
- ・地域づくり、様々な分野の意見がなるほど参考になった。
- ・多様な意見があることがわかった。
- ・様々な意見、考え方があることに感心しました。
- ・上記と同じで様々な視点で考えていることがわかった。
- ・背景は色々複雑であるということ
- ・多様な意見の中で地域課題、事情が発言され西区の特殊性を認識した。
- ・地区外から来られていた人の意見が聞けてよかった。
- ・若い人たちの新鮮な意見を「生、で聞いたのが何より良かった。
- ・意見を交換できることは、大切なことであることがとても良くわかるワークショップであった。
- ・一人で考えていても良くわからないが、人の意見を聞きながら自分も考えがまとまると思っ

た。

- ・ いろんな方の視点や意見が集まると広がりが生まれる。
- ・ 話し合うことのすばらしさを感じた。
- ・ 今をどうするのかを困っていたところでしたが、10年先を考えることで、楽になることが出来ました。自分自身の困っている理由がわかった。
- ・ これまで自分自身の中でバラバラに捉えていたテーマに繋がりがあり、もう一度足元から見直す必要があることに気づいた。
- ・ 方向性としての西区の「善さ」の確認と共有、「暮らし」や人とのつながりを第一に大切にしたいと思っていることがわかった。
- ・ 西区のこれまでの取り組みの評価が高いことに気づいた。
- ・ 制度だけではなく「職場のゆとり」、「当たり前」などの人々の心の変化させていく必要がある。◎たくさんお話を聞けたこと。△自分からなかなか話だせなかった。
- ・ 地域のつながりの必要性
- ・ 区民の一人ひとりが大切にされ、優しくなれたらいいなと最後に思いました。
- ・ 西区の活性化にぜひつなげてほしい。
- ・ 農業生産者の生の声、ブランドの中身、味、流通、課題 産業と絡めて提案など。
- ・ 自治協に加えて様々な分野でより深い議論が行える場が必要と思いました。
- ・ こういう機会は一年1回の定例化されたほうが良いじゃないでしょうか。

〈Q4〉WSで嬉しかったこと・残念だったこと

■嬉しかったこと

- ・ 区のビジョンを改めて見直ししっかり確認が、出来たこと。
- ・ 他のテーマも含め未来に向け期待できる雰囲気でした。
- ・ 市民の意見が市制に反映できること。
- ・ 皆さん、素晴らしい熱意です。
- ・ 関心にあることをたくさん話し、いろいろな視点の意見が聞けた。
- ・ 様々な立場の人と問題意識を共有できて面白かったし、楽しかった。
- ・ 農家の方の生の声を聞いて嬉しかった。
- ・ 積極的な意見が多く参考になった。
- ・ 一人ひとりがよく意見が出た。
- ・ いろんな方の意見を聞くことが出来た。
- ・ グループでの良い雰囲気で意見交換できた。
- ・ 我グループは経験豊富な集まりであったせいか非常に良かった。
- ・ 内容の濃いワークショップだったことが良かったです。
- ・ 5グループあったけど、関連性もあったこともあるので、トータルの目指す方向・・・もありかな？
- ・ 隣り同士を大切にするとところから全てが始まる。→そんな感じがした。
- ・ スタッフがうまくリードしてまとめてくれた。ワークショップではまとめて方向性を出すことがとても重要である。とても有意義な時間であった。
- ・ 短い時間でしたが、参加メンバーが互いに尊重しながらスピーディに話し合えたことが嬉しか

った。ファシリテーターのおかげです。

- ・ワークショップは良い！！ファシリテーターも素晴らしい！！
- ・なし。

■残念だったこと

- ・もう少し時間がほしい。
- ・もう少し時間がほしかった。
- ・時間が足りなかったこと（今後、何度か開催できるといいですね。）
- ・時間が足りなかった。（いくらあってもきりがないので）
- ・時間が足りませんでした。
- ・時間をもっと必要、もっと議論を深めたい。
- ・私も意見がもっと出ると良かった。
- ・最後全体の意見交換があったらなーと思います。
- ・まとめきれなかった・・・自分が喋りすぎたかも。
- ・去年から参加。テーマを時系列に考えることが出来なかったこと。
- ・ワークのゴールイメージが少しわかりにくかった点は課題かもしれません。

〈Q5〉その他、気づいたことなど

- ・区ビジョン策定のためのワークショップなので、もう少し具体的な方向性のまとめに導いたほうが良かった。

- ・事前にまとめておくことが大切である。
- ・「人材」は地域の宝ですね。
- ・根っこをしっかりと張った西区…地域住民の一人ひとりが生きている喜びを感じる西区になってほしい。そのためには、自分が地域で生きる人になりたいと思う。
- ・もう一回くらい今回の続きがやりたいです。
- ・他の地区の話も聞いてみたいです。
- ・進行係非常に良かった。
- ・スタッフが若い！
- ・特にありません。良い機会をありがとうございました。
- ・特になし (3)